

がん哲学外来市民学会設立趣意書

がん哲学外来市民学会 代表 樋野 興夫

「第1回がん哲学外来コーディネーター養成講座」(2011年12月17日～18日：於 がん哲学外来研修センター)が佐久で開催され、「佐久宣言」が採択されるに至った。

「佐久宣言」(2011年12月18日)

- (1) 「がん哲学外来市民学会」(Cancer Philosophy Clinic Association for the People)の設立
- (2) 「がん哲学外来コーディネーター養成講座」修了証の発行

がん対策推進基本計画は、すべてのがん患者・家族の苦痛の軽減・療養生活の質の向上を目標とし、そのための施策としてがん医療に関する相談支援・情報提供が挙げられている。対話型外来の『がん哲学外来』は、一般的ながん相談やセカンドオピニオン相談と異なり、患者の生き方やスピリチュアルな問題について患者と十分に対話するものである。

「がん哲学外来市民学会」では、

- (1) 「がん哲学外来」の必要要件を言語化する
- (2) 「がん哲学外来コーディネーター」修了証・認定証を発行する。

がん対策基本法や基本計画が掲げる「患者主体の医療」の基盤整備の一助となることが期待され、厚生労働行政の施策等への活用が可能である。

がん罹患した患者・家族の多くが、未来に対する不安と生き甲斐の喪失を体験している。一方、医療従事者は、患者の生き方や人生に関心を持ったとしても、それらについて患者・家族と十分に対話する時間的余裕がないのが現状である。患者・家族はがんとともに生きていく上で、病気を治すことだけでなく、人とのつながりを感じ、尊厳を持って生きることを求めている。わが国の生活習慣の中には欧米のようなカウンセリングが普及していないので、上記の患者および家族の受け皿は不十分であると言えよう。

「がん哲学外来市民学会」は、医師、医療従事者、一般市民、学生、中高生など、がん問題に関心を持つあらゆる人々が立場を超えて集う「経験交流」の場でもある。市民の立場に立つ「医療維新」を目指す。モットーは

- (1) 「暇げな風貌」の中に、「偉大なるお節介」を有する「胆力と気概」の習得
- (2) 体験を踏まえつつ、空の上から自分を見る視点を持った「当事者研究」の推進
- (3) 言葉の大切さ、重み、対話のあり方を学ぶ「次世代のがん相談者」の育成

である。

(順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授)



がん哲学外来市民学会

(事務局) がん哲学外来研修センター

〒385-0046 長野県佐久市前山 321 番地 3

電話 0267-63-5369/FAX0267-63-5389